

清浄化に向けた取り組み手順

BL感染牛を繁殖牛に残さない為に検査します。当地域では、子牛（雌）から清浄化に向けて取り組みを強化しております。

子牛の検査結果「陰性」については、子牛セリ市時に陰性牛（次世代雌牛）の表示をします。陽性牛については評価委員会による評価額で肥育素牛として買い上げを行います。

【雌子牛】
1次：抗体検査（エライザ法）
 ウイルスに対する抗体を見る抗体検査（生後7カ月齢以上）
2次：遺伝子検査（PCR法）
 抗体検査（エライザ法）で陽性時、ウイルス量をみる遺伝子検査
※任意検査 検査誓約書の提出

血液検査
 （感染牛の把握）
定期的な検査
 （清浄性の維持）
 （感染牛の把握）

計画的な淘汰
 （優先的な更新）
 （伝播リスク軽減）

感染牛を入れない
 （農場間伝播防止）

検査した牛が陽性だった場合すぐに淘汰しなければならない訳ではありません！
 獣医に相談し、遺伝子検査にてウイルス量が多い牛については淘汰を検討しましょう。

農場内で広げない
 （農場内伝播防止）

○非感染牛の導入
 ・感染していない牛を導入（検査済みの牛）
 ○導入時検査
 ・外部導入牛の検査
 ・預託先からの返却牛の検査
 ○吸血昆虫対策
 ・牛舎の周囲にネット等を設置（農場への侵入防止策）

○分離飼育・怪我防止対策
 ・感染牛と感染していない牛群を離して飼育
 ・出血を伴う怪我防止対策、牛舎修繕や牧場柵修繕（針金やバラ線等）
 ○吸血昆虫対策
 ・アブトラップ、ペルメトリン乳剤等の使用
 ・感染牛群と感染していない牛群の間に空房やネット等の仕切りを設置
 ○初乳・分娩
 ・感染していない牛の初乳または初乳製剤を給与
 ・やむを得ない場合は、感染牛の初乳を60℃で30分間加温、または一度完全凍結
 ・分娩房を設置し他の牛と隔離する
 ・感染牛から後継牛をとらない
 ○除角・削蹄・去勢・装着器具（耳標・鼻環）
 ・確実な止血
 ・使用した器具の洗浄・消毒
 ○注射
 ・1頭1針
 ○直腸検査・人工授精
 ・1頭ごとに手袋を交換

感染していない牛から順に実施する。